



同窓会員の皆さまへ

副会長 松原良之

昭和59年10月19日
 群馬県立
 太田工業高等学校
 同窓会
 0276 (45) 4742

会員の皆様お元気で御活躍されている事と御推察申し上げます。

21世紀という言葉は、もはや私たちにとって遠い物ではなくなりました。近代技術の進歩は目ざましくINSへと発展、又機械工業や化学工業ではニューセラミックスと、新しい産業が発達し、おそらく大きな変貌がみられるだろう。人生終止勉学の終りはありません。こういう世代の中で毎日の仕事や勉学、あるいは地域のPTA、育成会等活躍されている事と思います。

皆さん、時には在校生のクラブ活動の活躍でも観戦なさってはいかがでしょうか。私事ですが、野球が大好きで、特に高校野球ファンの一人です。毎年この五、六年小供をつれ、夏の大会に行く事にしております。あゝ炎天下で応援す

る事が、ストレス解消にもなります。

又同級生や同窓生に、会う事ができ、学生時代の、なつかしい思い出や、近況等で話しのはずむ事があります。

話しは変わりますが、太工同窓会報も、創刊号以来第14号の発行です。この中には、同窓会員の近況をはじめ、学校日より、会員日より、又在校生のクラブ活動、活躍内容などが、もりこまれ、会員にとつて母校近況を知る事ができる。唯一の機関紙と思います。

おそらく、近い内に、会員の中より、自分達の小供が母校に入学し親子2代の同窓生誕生と、題する紙面も間近いのではないかと思われまふ。御期待下さい。

同窓会員の皆さまには、今後共同窓会及び母校発展の為、ご指導ご協力をお願い致します。

凝り屋

校長 狩野徳司

一学期の半ば頃のことだったと思う。謄写版刷りの小冊子が私の机上においてあった。

表紙には「ニューハーフ」と横文字で書いてあり、凝ったイラストがバックになっていた。

期待して中味を見ると、三十九ページ全体が丹念なイラストによってぎっしりと構成されていた。電気科一年B組四人の生徒の同人誌であった。

教頭先生の言に依ると、このところ毎日、放課後遅くまで職員室の印刷が四人に占領されて困っていましたと言う。

ところで、近頃校内の話題に生徒の「凝り屋」の話がすっかり少なくなつてしまつたことは淋しい。

嘗ては、各科に必ず一人や二人話題の「凝り屋」がいた。彼等は時には「分解魔」とか「通信魔」とか呼ばれたりしながら、結構多くの先生から好感を寄せられていた。

考えてみれば、生徒会の運動部や文化部も、この「凝り屋」の集りではないか。「凝り屋」が多く、「凝り性」強いチームからよりの見事な成績が期待出来るようだ。

私は、この高校時代の「凝り性」こそ大切な財産だと信じている。それはやがて、知的好奇心を生み創造力と発展を遂げていくからである。

さて、話題は飛ぶが、近頃学校の帰り路で食べもの、飲みものを口にしながら歩く生徒が目につく。昔は、食べものを口にしながら路上を歩くことは端たないことと、厳しく仕付けられたものだ。

今では、いっばしの大人達までが、ものを口にして歩く時世である。止むを得ないのかも知れない。だが、ある人が言つた。「ものをじっくりと考えることは、じっくりと坐ることから始まる」と。

もしそうだとすれば、食べものすらじっくりと坐つて食べる習慣の乏しい若者たちに、どうしてじっくりと考える習慣が育つか。

唐突のようだが、ものの立ち歩き食いと、「凝り屋」の減少がどこかで手を結んでいるように思うのだがどうだろうか。

四人の一年生の「凝り屋」の作品を見て、洵に類笑ましく思った。同時に、いろいろなこととも考えさせられた。更に、本校にはもつと沢山の「凝り屋」がいるに違いないと思つたりした。

海外出張を経験して

八期卒木村清一

強い陽射がようやく弱くなり、最近、やっと涼しくなってきました。夜になると虫の音が聞かれ、秋の気配が、そこかしこに感じられる今日、比項ですが、「太工」を卒業し、東京三洋電機に入社、早くも十年、一口で十年といいますが、学生時代とは、一味も二味も違ったいろいろな経験をすることができました。

その中でも印象深いのが、もう二年前になりますが、海外に出張する機会にめぐまれ、三洋フイリッピン工場に三ヶ月間、滞在することができました。その仕事内容は、新工場冷蔵庫ラインの前処理塗装工程の管理、作業指導ということですが、当然の事ながら、言葉、習慣、食物、気候など違い非常に不安に思っていました。

そんな中、一路、マニラ国際空港に到着、かたことの英語で入国手続きを済せ、現地の駐在員が迎えに来てくれたのですが、何んと、その駐在員は、後で語ししているうちに判ったのですが、「太工」卒業主で、Sさんといい、駐在生、一年というのに、現地語（タガログ）と英語をうまく話し、

活躍されていました。尚、先月任期完了となり、無事帰国したようです。

ところで、フイリッピンの気候ですが、四季がなく、雨期、乾期のツーンシーズンで、自分が、滞在していた時期は、乾期は、気温は高いのですが、湿気がなく過しやすい気候でした。そんな気候のせいか、物事にこだわらず、陽気で明るく、のんびりしているように感じました。

次に料理ですが、マニラ市街地では、寿し、丼物、そば、その他何んでも食べることができ、また、その殆んどが、日本人が、経営する店で味も良く、驚きました。

また、現地の料理では、ルンピア、ガンバス、などの料理がうまく毎日のように食べていました。

また、果物も豊富で、日本では、とても食べるのできない、たくさん果物を食べる事ができ、特にレモンに似たカラマンシーは、酸味が強くうまいのですが、日本では、食物検疫で輸入禁止になっているようです。

料理、果物、その他、まだ、まだ、たくさんあるのですが、最後に、現在、卒業生の何人か、アメリカ、東南アジア等で活躍しています。元気で帰国されることを

をお祈りいたします。

卒業してから

電気科猪爪広由

学校を卒業して、早いもので十八年が過ぎ去りました。卒業後、三年位までは、同期生と自分達の近況や学生時代の思い出を語ったものです。先生にパンと牛乳の餌に釣られて、校内マラソン大会で優勝したり、計算尺検定試験合格させられたり、修学旅行では長靴、リュックサックススタイルで参加した事などいろいろな事があつたが、十年、十五年とたつと太田工業卒業である事も薄らいでくる。

そんな時、卒業生として痛切に感じたのは、寄付金がきた事、つまり、昨年の甲子園大会出場の大快挙を成しとげた事だ。まさか、母校が甲子園に出場するとは……職場でも話題となり、久しぶりに卒業生であることを強く感じた。

又、今回、同窓会報の原稿を依頼され困惑した。こちらは違った意味で卒業生であることを感じた。たまたま、役員の方が職場にいたのと、職場の同窓生を回り回って私にきたのだ。同窓会も第二〇期卒業生の集りとなり、役員の方々の御苦労が忍ばれます。ついでに思い出した事に、昭和五十三年頃、

電気科同期会を鬼怒川温泉にて開催したことです。この時は、とにかく楽しかった。私は、同期会の開催までを手伝い、大成功の内に終り、ほっとしたのを思い出しました。十数年ぶりに会った仲間同志とゆう事で、語り続けあつた。

静かになったのは、記念写真におさまった時だけで、女中さん達に「この集りは、なんですか、変っていますね」と云われた事を覚えていますが。とにかく、すごく盛りあがりました。同窓会場の方々も、同期会を十年後とか、一区切の時に開催したらどうですか。

柔道と詩吟で

第九期市川彰男

学校も卒業して東京三洋に入社して、今年でもう11年になります。今思えば長い様でもあり、あつという間に過ぎてしまった11年であつた様にも思います。現在私は、業務用冷蔵庫の設計を担当しています。非常にむずかしくて責任のある仕事ですが、それだけにまたやりがいのある仕事だと思えます。私の場合は、入社して2年間現場でフレスをやり、その後、現場の生産管理的な仕事を7年やって、2年前に今の仕事に変わりました。それまでとは全く違った仕事につ

いて、初めのうちは何もわからず、毎日毎日が必死でした。今でもそれは変わりませんが、自分の設計した製品がラインで流れるのを見る時、自分のやっている仕事の重要さを改めて感じます。

今、仕事が忙がしくて、毎日の様に残業をしています。そんな中で暇を見つけて、会社のクラブ活動をやっています。現在は、柔道と詩吟をやっていますが、柔道は高校時代柔道部に籍を置いていた関係で、入社した年に柔道部に入部し、一時は国体出場を目標に毎日の様に練習した時期もありましたが、今は若い部員も増え、仕事も忙がしいため、月に2、3回、日頃のストレスの発散に軽く汗を流す程度です。ただ若い頃に柔道で体を鍛えておいたおかげで、精神的にも、肉体的にもスタミナには自信があり、それが仕事にも大きなプラスになっています。詩吟の方は、6年前に友人に誘われてなんとなく始めましたが、最近になって、少しづつ、詩吟の良さがわかる様になってきました。群馬県の場合、全国でも詩吟のレベルが高く、コンクールに出場してもなかなかいい成績がとれませんが、趣味としては、年令的な限界がないので、これからもずっと続けて

行こうと思っています。

進路の決定 (59年M卒)

富士重工佐藤 充

進学か就職か迷っている者も、たくさんいると思う。では私の考えを少し話したいと思う。

今単純に就職するのなら「大卒の方が良い」と考えている人も少なくないと思う。ではいったい、どこが大卒者の方が有利なのか？

一番大きな違いは給料だろう。その他では、間接作業か直接作業かの違いだが、どちらもそれなりに大変なので比較のしようがない。

つまり大きな違いというのは給料だけなのである。今、就職先を選ぶ人の大半は「自分に合った仕事」かどうかで決めていると思う。

そこで私の考えを少し、私も最初は、進学する事しか考えていなかった。そして、ある日進学先の試験に落ちた事がわかった次の日だったろうか、求人表を見ていると、自分のしてみたい仕事の求人があるではないか。そこで大いに迷った。「大学を出てから、はたしてこの求人が来るだろうか」そしてやっと決めた。就職することに、

だが、もし大学を出て同じ求人があるのなら絶対的にそちらの方が良い。(給料が良くて好きな仕事

ができるのだから)でも求人があるという保証はどこにもない。むしろ自分の行けるレベルの大学にどう考えても来そうなかった。そこで高卒でもいいと決めた。

良いことに私の会社は夜間大学にも通わせてくれるし、大卒後に認定試験に合格すれば大卒扱いにもなる。それが今の会社に決めた大きな理由だ。

では、それがほんとうに一番良い考えだったのか？それは今でもわからない。ひよつとすると一生わからないかも知れない。

最後に、私の言いたい事は、人の言う事なんてほんの少しだけ参考にして、あとは全部自分で考えて決める。進路決定なんて、そんなものだ。私個人の考えにすぎないが。

社会人として

十四期卒 権田信男

太田工業を卒業し、はや六年、25歳になろうとしております。時は知らず知らずに過ぎ去る物で、もう六年かと思うのが実感ではないのでしょうか。

卒業してから社会という所が厳しい所である事がわかりました。自分一人の考えでは成り立たない、人間関係を大事にする所だと思

います。社会の中の会社もそうです。不安な気持ちで入社した日が、今ではなつかしく思います。あの時からみると私自身、ほんの少しではあります。大人になったのとは思っております。20歳(成人式)を過ぎてから自分自身少し変わった様な気がするのです。それは人間としてひとつの節目を過ぎたからかも知れませんが、人間として大きく責任というものを感ぜました。

今年、私は結婚致しました。「やった。ノノ」という気持ちと今までの様にチャランポランな考えではだめだ。もっと大人にならなくてはと思っております。夫として、いずれば父親としてがんばってゆかなくてはなりません。今までの経験を生かし、今以上に人間として成長できたらと思います。少し長々と書いてしまいました。何かまとまらない文章になってしまいました。言える事は人間努力と前進あるのみだと思います。人生楽しい事ばかりあればよいのですが、それも無理な感じ様です。私は人間として、大人として男として、「ああ、よかった」と自分自身に言える様になりたいと思っております。卒業生の皆さん、お互いがんばって行きましょう。

雑感

尾内秀夫

「光陰は矢の如し」と申しますが私が太田工業高校に着任いたしましたのが、昭和三十九年五月ですから、ちょうど二十年余の歳月が過ぎることになります。一期生が三年生になり十八学級が全部そろって学校全体が新生へのエネルギーを蓄積し外に向って大きく飛躍するような時でした。校舎は教室と実験室・実習工場がほぼ完成し体育館の突貫工事を盛んにやっておるさなかで合掌造の屋根は校舎全体の構図をひときは引き立てるきわめてユニークなものでした。当時は神武景気が終り、池田内閣の岩戸景気によって所得は倍増、日本経済は高度に成長して家庭には電気掃除機・電気洗濯機・電気冷蔵庫・カラーテレビ等の電化製品と自家用車を持てるほど耐久消費財は潤沢に市場に出まわることになりました。かような日本経済の驚異的な発展による時代の要請にもとづいて東毛太田の地に工業高校が設立されたのでしよう。

『創業は易く、完成は難し』といいますが、当時は新しい伝統と歴史のある学校を造るため職員と生徒は心身ともに一丸となつて学習

にスポーツに生徒会活動に青春のエネルギーを発散昇華させ人格の形成につとめました。その具体的な成果は着々と実のり、野球部の四十年秋季大会での輝かしい準優勝で開花し、同時に三十九年十一月の第一回の工業祭は校舎落成記念式典と共に他校にないオリジナリティー溢れる祭典でした。

爾来二十年の風雪を経過し昨年の夏は野球部が県大会で前工を破り初優勝し、晴れて甲子園へ出場という栄冠を手中に収めましたことは、太田市にとつては、まさに史上初の壮挙であり全市民をして感激と興奮の渦中に巻き込みましたことが昨日のでき事のように感じます。創立以来卒業生は五千五百有余名に達し、母校の歴史と伝統を背負つて社会の各分野で活躍されておられる事と思います。現実社会は科学技術の発達によりあらゆるものが大きく変貌を遂げつつあり、世はまさにO・A・F Aの時代となり機械が人間の手足だけでなく、精神的頭脳労働にもとつて代わるようになりました。人間が人間らしく生きるためにつくつたはずの技術や機械やシステムが逆に人間と対立し、人間を支配し管理するような、人間疎外という新しい現象が発生し、我々は如何

にそれに対応していくか迫られております。

職業の適性

機械科 高橋欣弥

長い間機械科の生徒の進路指導をしながら時折り職業の適性について考えることがあるが、生徒一人一人が個性をもっているのです、いろいろな要素を含み、また隠れた面もありそれを一〇〇%つかむことの難しさをいつも感じている。そこで適性ということについて

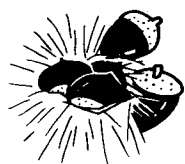
私なりに考えてみると、ときたま職業を転々として替え、定職を持たず絶えず新しい仕事を追つて一か所に定着しないものがあるが、その理由としてよく「適性がない」といったことをあげるが、はたしてそうだろうか、やたら適性を口にするのもおかしいと思われるし、また簡単に離・退職をくりかえす者の職業に対する意識そのものには問題があり、ましてや適性が無いなどということではそれを転職の理由にするとき、それは適性ということではなく興味がなくなつたと考えてよく適性とは似て非なるものであると思われる。

適性のあるなしは少々の期間をかけただけでは簡単にわかるものではなく、「石の上にも三年」といわれるように一つの職業について以上興味本位からではなく、苦しいことがあつても一定期間我慢するくらいの根気や根性がなければならぬ。このようなことを耐性というが、耐性にうらづけられてこそ適性を論ずる資格もでてるものである。

正しい職業に対する意識は、耐性と適性のバランスの上にだんだん育つていくようであり、そのような考え方のできるような進路指導をしていきたいと思つている。

なお、生徒諸君の適性は狭いものでなくかなり幅広いものをもつていており、自分でも気づかず私達も見すごしてしまふこともありそれだけにいろいろな可能性をもっているのではないだろうか。

何ものにもかえがたい若さをもつている生徒、卒業生諸君がやりがいのある仕事をつかむためにも自己の可能性に挑戦し、その適性を十分發揮してもらいたいものである。



昭和58年度 卒業生の進路

進 路	希望数				決定数				未定数			
	M	E	C	計	M	E	C	計	M	E	C	計
進 学	8	8	8	24	7	7	7	21	1	1	1	3
大 学	1	0	3	4	1	0	3	4	0	0	0	0
短大・高専	(2)		(2)	(2)	(1)							
各種専修	14	11	14	39	14	11	14	39	0	0	0	0
各種専修	53	58	51	162	53	58	51	162	0	0	0	0
学校幹旋	3	2	1	6	3	2	1	6	0	0	0	0
その他	79	79	77	235	78	76	232	1	1	1	3	3
計												

() 内は就職進学者数を示す

昭和五十八年度 卒業生の進路
 最近の進路希望の傾向として、
 顕著なのは、年々進学希望が増加
 しつつあることである。
 昭和五十八年度の卒業生も約三
 十%の進学希望で、その大部分の
 生徒は入学を果している。ただ、
 真剣に勉学に取り組み、一般入試
 を突破しようとする者は極くまれ
 で、学校推薦による推薦入試を受
 けようとする傾向が強いのが少し
 残念である。
 一方、就職希望者では、まず、
 地元指向が強くなる一方で、県外
 への就職希望者は大変少ない。

昭和58年度 卒業生 (第20回) 就職事業所

会社名	M	E	C	計	会社名	M	E	C	計	会社名	M	E	C	計	会社名	M	E	C	計	
(太田・新田)	5	2	2	9	城南製作			1	1	勸業電気			2	2	(東京)					
富士重工業	5	2	2	9	荻原物産		1		1	カネボー硝子	2	1	1	1	長谷川香料				2	2
荻原鉄工	1	3	1	5	三和シャッター	1			1	玉製作所	1		1	1	大忠電子				2	2
岡本理研ゴム			4	4	森 伝			1	1	北海製缶	1		1	1	東武鉄道				1	1
菱電エンジニアリング	1			1	フセラシ	1			1	日本コイル	1		1	1	関東電気保安協会				1	1
東芝シリコン	1	1		2	(館林・邑楽地区)					(前橋・高崎地区)					三田インテリア				1	1
沢藤電機	1			1	東京三洋電機	8	12	6	26	群馬ゼロックス		1	1	1	(栃県木)					
日本発条	2			2	宮津製作	2	2	1	5	電々公社	1		1	1	富士通(小山)				1	1
富士重工業(生協)	1			1	日本ラジエータ	1	2		3	自衛隊	2		2	2	栃木ミツミ				1	1
太田中央農協	1			1	三光シーベル	1		1	1	群馬県警察	1		1	1	バンドー化学				1	1
大隅樹脂	1		2	3	タマポリ				1	群馬ヤンマー	1		1	1	東京三洋電機				2	2
フジャオーデオ	1			1	富士通(館林)	2	2		4	トヨタオート群馬	1		1	1	杏林製薬				1	1
スパイス製作		1	1	2	凸版包材				2	群馬リコー	1		1	1	日本プロテイン					
盟和産業			1	1	東京樹脂ライニング				1	日産サニー	1		1	1	(埼玉県)					
第一鍛造	1			1	協進製作	1			1	(伊勢崎・桐生地区)					明和グラビア				1	1
金井車輪	1			1	サントリー	2	1		3	日本電子機器	2		2	2	クラリオン				1	1
双葉コントロー	1			1	富田電機	1			1	東洋アルミ	1		1	1	喬通信				1	1
今井鉄工	1			1	五十鈴鋼材	1			1	明星電気	1		1	1	山本工業				1	1
石原プラスチック			2	2	国産金属	2	1	1	4	日本コイル	1		1	1	河利自動車				1	1
シービーエス		1	1	2	日清紡	2	1	2	5	桐生機械	1	1	2	2	(神奈川県)					
富士エンジニア		1	1	2	中央電子	1	2		3	岩瀬産業	1		1	1	神奈川警				1	1
しげる工業	1	1	1	3	日東電機				2	ソフイア	1		1	1	東芝(小向)				1	1
東洋機工		1	1	2	橋本フォーミング	1			1	小室楽器			1	1						
太田病院	1			1	館林農協				1	パイロット万年筆	1		1	1	合 計	53	60	51	164	

昭和58年度卒業生の進学状況 (合格者数)

大学・短大	人数	専修・専門学校	人数	大学・短大	人数
足利工業大	9	足利コンピューター学院	2	東京ビジネスオブスクール	3
日本工業大	6	東京ビジネスカレッジ	1	日本航空大 学 校	1
関東学園大	1	太田職業訓練校	4	県立農林大 学 校	1
埼玉工業大	1	館林職業訓練校	2	群馬美容学 校	1
東海大(工)	2	群馬自動車整備	8	太田調理師 専	1
日本大(工)	1	日本工学院	4	ジャパンア ク シ ョ ン	1
金沢経済大	1	青山レコーディング	1	京都コンピューター学院	1
関東短期大	3	東京工学院	2	高崎ビジネススクー	3
群馬工短大	5(4)	日本電子	2		
計	29	関東工業	1	計	39

なお、群馬工短大の(4)は就職進学者である。また、今年度には合格者がなかったが群馬や小山工専への編入試験を受ける者が数名いる。

第65回全国高等学校野球選手権記念大会 出場寄付金決算書

1. 収入

科 目	金 額
県 補 助 金	1,000,000円
市 町 村 補 助 金	4,580,000
群馬県高等学校野球連盟	100,000
朝日新聞社補助	1,174,340
現地募金等	118,000
P T A 関係	15,693,850
同窓会関係	10,891,061
学校後援会野球部父兄会関係	9,156,350
野球部 O B 関係	6,122,000
一般寄付金	33,146,727
雑収入	26,199
計	83,108,527

2. 支出

科 目	金 額	
選手派遣費	9,006,280円	
応援団派遣費	2,250,420	
応援補助費	10,000,420	
渉外費	142,000	
選手等強化費	1,510,000	
印刷費	2,313,180	
事務費	1,254,971	
諸	通信費	2,622,930
	記念品代	4,312,250
計	33,412,451	

3. 収支差引残額48,696,076円

上記のとおり報告いたします。

群馬県立太田工業高等学校野球部甲子園出場実行委員会委員長 宮村力男
監査の結果相違ないことを証明いたします。

昭和58年10月21日 会計監査 鹿山 市郎 高橋 金次 高橋 欣弥

[甲子園出場募金決算残額の運用計画]

- 3,000万円 野球部雨天練習場建設資金として預金
- 1,800万円 クラブ活動振興費等

同窓会々員数

S59.3.1現在

卒業回数	卒業年月日	合計
1	昭40.3.12	302
2	41.3.9	315
3	42.3.9	306
4	43.3.9	303
5	44.3.6	322
6	45.3.6	321
7	46.3.5	319
8	47.3.1	311
9	48.3.1	306
10	49.3.1	289
11	50.3.1	273
12	51.3.1	257
13	52.3.1	261
14	53.3.1	260
15	54.3.1	245
16	55.3.1	227
17	56.3.1	241
18	57.3.1	228
19	58.3.1	222
20	59.3.1	235
合計		5,543

中村 薫(十二期M)
同窓会では、既に三十六名の方々が永眠されました。
謹んでおくりやみ申し上げます。

会員だより

次(五九・九現在)
石川弘康先生(英語)新任
板垣雅俊先生(保体)新任
大沢浩二先生(国語)非常勤
塚越道夫先生(英語)非常勤
太田雅己先生(工化)非常勤
橋本 滋先生(事務)新任

学校だより

職員移動 昭和五十九年四月
田辺久司先生(英語)太田西女へ
板橋 治先生(保体)太田高校へ
谷 一郎先生(保体)沼田高校へ
岩崎 昇先生(英語)退職
栗原清一先生(事務)退職

編集後記

大変遅くなりましたが、皆様方の御協力により、会報14号を発行することができました。
なお、原稿をおよせくださいました方々には紙面をお借りして、御礼申し上げます。
今年の3月で、岩崎 昇先生も退職され、一期生がおそわった、母校在職の先生は数名と少なくなりました。
母校の工業祭が来たる11月3日4日の2日間にわたり開催されます。是非この機会に母校の発展と後輩達の活躍を御覧下さるよう、御案内申し上げます。
母校野球部の甲子園出場にさいして、寄付金集めに同窓会員の皆様方の御協力をいただき、誠にありがとうございます。
(林 記)